22　　かなわぬ恋の果て　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　文法 副詞①

読解 心情の具体的内容をつかむ

のの帝の御時、の、のとて㋐いますかりけるを、帝おろしうて後にひとりいますかりけるを、㋑忍びて通ひけり。中将病重くしてわづらひける、もとのどももあり、これはⓐいと忍びてあることなれば、①え行きもとぶらひ給はず、忍び忍びになむとぶらひけること日々にありけり。さるに問はぬ日なむありける。中将のもとより、

　つれづれといとど心のわびしきに②今日は問はずて暮らしてむとや

とておこせたり。弱くなりにたりとていといたく泣きさわぎて、返りごとなどもせむとするほどに死にけりと聞きて、③いといみじかりけり。

* 語注

水の尾の帝＝天皇。在位は八五七年～八七六年。

左大弁の女＝弁の御息所に同じ。大弁は、太政官の三等官。

御息所＝天皇の后。

御髪おろし給うて＝出家なさって。

在中将＝。

さるに＝ところが。

【原文】

水の尾の帝の御時、左大弁の女、弁の御息所とていますかりけるを、帝御髪おろし給うて後にひとりいますかりけるを、在中将忍びて通ひけり。中将病重くしてわづらひける、もとの妻どももあり、これはいと忍びてあることなれば、え行きもとぶらひ給はず、忍び忍びになむとぶらひけること日々にありけり。さるに問はぬ日なむありける。中将のもとより、

　　つれづれといとど心のわびしきに今日は問はずて暮らしてむとや

とておこせたり。弱くなりにたりとていといたく泣きさわぎて、返りごとなどもせむとするほどに死にけりと聞きて、いといみじかりけり。

問一　次の「内容わしづかみ」の空欄に本文中の語句を書き入れよ。

〔　　　　〕が〔　　　　　　〕のもとへ通っていたところ、重い〔　　〕にかかった。弁の御息所は手紙を贈っていたが、ある日贈らない日があった。〔　　　　〕のもとから歌が届いたが、返歌（＝〔　　　　　〕）を待たず在中将は亡くなってしまった。

問二　波線部㋐・㋑の意味を答えよ（終止形でよい）。〈４点×２〉

㋐〔　　　　　　　　　　〕　㋑〔　　　　　　　　　　〕

問三　二重線部ⓐは程度を表す副詞であるが、「いと」以外の程度を表す副詞を本文中から二つ抜き出せ。〈３点〉

〔　　　　　　　〕〔　　　　　　　〕

問四　チェック問題［副詞①］

次の各文中の副詞を抜き出して、現代語訳せよ。〈２点×４〉

１　げにただ人にはあらざりけりとおぼして、…（竹取物語）

２　今日、風・雲の気色はなはだし。（土佐日記）

３　世間の人、なべてこのことあり。（徒然草）

４　薬も食はず。やがて起きも上がらで、病み伏せり。（竹取物語）

１〔　　　　　　　〕〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

２〔　　　　　　　〕〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

３〔　　　　　　　〕〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

４〔　　　　　　　〕〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

問五　傍線部①・②の解釈として最も適当なものを選べ。〈８点×２〉

①　ア　弁の御息所は見舞うことをためらいなさり、

イ　在中将は病でせって神仏に詣でることもなさらず、

　　ウ　在中将は病気平癒の御の僧を呼ぶことをやめて、

　　エ　弁の御息所は自ら見舞いに出向くこともおできにならず、

〔　　　〕

②　ア　あなたは、私の様子を気にすることもなく、今日一日を何もなく過ごすことですね

イ　あなたは、私に手紙をくださらないまま、今日をお過ごしなさるのだろうか

　　ウ　私は、あなたの家に今日も行くことができず、むなしく過ごしています

　　エ　私は、今日もこのままあなたに手紙を出せずに終わってしまいそうですよ

〔　　　〕

問六　傍線部③は誰の、どのような気持ちを言うのか。四十字以内で答えよ。〈15点〉

〔　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　〕

【解答】

問一　在中将／弁の御息所（左大弁の女）／病／在中将／返りごと

問二　㋐＝いらっしゃる　㋑＝人目を避ける〈４点×２〉

問三　いとど・いたく〈３点〉

問四　１＝げに／なるほど・本当に

　　　２＝はなはだ／たいそう

　　　３＝なべて／総じて・おしなべて

　　　４＝やがて／そのまま〈２点×４〉

問五　①＝エ　②＝イ〈８点×２〉

問六　弁の御息所の、返歌もしないうちに在中将が亡くなったことをたいそう嘆く気持ち。（38字）〈15点〉

【現代語訳】

水の尾の帝（清和天皇）の御代に、左大弁の娘が、弁の御息所としていらっしゃったが、帝が出家なさってのちに一人でいらっしゃったが、（その方のもとへ）在中将が人目を避けて通った。 中将が病気が重くて苦しんだ時、本妻たちもあり、このことはたいそう人目を避けていることであるので、（御息所は）お見舞いに行くこともおできにならず、人目を避けて見舞いの手紙を贈ったことが毎日あった。ところが見舞いの手紙を出さない日があった。中将のもとから、

しみじみともの寂しくて、ますます心につらく思われるのに、今日はお見舞いの手紙もくださらずにお過ごしになろうとするのですか。

といって歌をよこした。（御息所は中将が）弱くなってしまったと思ってたいそうひどく泣き騒いで、返歌などもしようとしているうちに（中将が）死んでしまったと聞いて、 たいそうひどく悲しんだ。【補充問題】（＊行数は本書に対応）

問１　「これはいと忍びてあることなれば」（３行目）について、

(1)「これ」とは何を指しているか。簡潔に答えよ。

(2)このようにするのはなぜか。簡潔に答えよ。

問２　「つれづれと…」の歌について述べた次の文の空欄に入る語句を五字以内で答えよ。

重態に陥っているのに、見舞いの便りも寄こさない［　①　］に対する［　②　］気持ちを表現している。

【補充問題解答】

問１

(1) 在中将が弁の御息所のもとに通うこと。

(2) 在中将には正妻がおり、また、弁の御息所は帝の元妃だから。

問２　①御息所（弁の御息所）　②恨めしい（不満な）